

企画展

平川紀道・野村康生 既知の宇宙 | 未知なる日常

2022年7月2日（土）～8月29日（月）

島根県立石見美術館 展示室 A・B・C

石見出身のアーティストが描くスペキュラティブな世界像

島根県浜田市出身の平川紀道（1982～）と、島根県益田市出身の野村康生（1979～）が、生まれ育った島根県西部・石見地域で新作を披露します。

平川はコンピューター・プログラミングを駆使した映像・音響インスタレーション*を中心に、国内外の美術展、芸術祭などで活躍しています。野村は高次元（3次元以上の次元）や宇宙についての考察をテーマに絵画を制作していましたが、2018年にニューヨークに拠点を移して以降は、体験型のインスタレーションを発表しています。

二人は同世代、同じ地域の出身であるだけでなく、いずれも東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構（Kavli IPMU）でアーティスト・イン・レジデンス**プログラムに参加する（野村は2015年、平川は2016年）など、アートとサイエンスの領域をまたぐ活動をしているという共通項を持っています。

「眼で見ているもの、耳で聞いているものは世界そのものではない」とする平川と、「あなたが今見ている世界は、どこまでが本当に実在する世界でしょうか」と問いかける野村。2人のアーティストが“スペキュラティブ”な（＝問いを生み出し、道のものごとについて考えるための）作品を通して、私たちの身体や知覚、思考を揺さぶります。

* インスタレーション＝特定の室内や屋外に装置やオブジェなどを置き、その空間全体を作品とみなして鑑賞者に体験してもらう手法。

** アーティスト・イン・レジデンス＝ある場所にアーティストが一定期間滞在し、作品制作やリサーチを行うこと。

【展覧会の楽しみかた】

[1] 「あたりまえ」を疑い、新しい感覚を手に入れる！

アーティストは、私たちが考えもつかないビジョンを提示してくれます。これまでにない視点で地上の風景や宇宙をとらえた作品を体験することは、私たちに新しい感覚をよびさましてくれることでしょう。未知への扉をひらくカギが、展示室で待っています。

[2] 石見から世界に飛び出したアーティストって、どんな人たち？

会期中に開催されるトークイベントやワークショップに参加して、石見で生まれ育ち、世界で活躍するアーティストのお話をきいてみましょう。

[3] アーティストの「たくらみ」に参加しよう！

「展示室 A」の作品は、会期中に形を変えてゆきます。あなたも作品の「仕掛け」に参加して、後から来場する人の目を驚かせてみましょう。

【展示構成】

【展示室 A】平川紀道と野村康生の共同制作

来場者の参加によって変わってゆく、「重力」や「視る」、「生成」をテーマにしたインスタレーション。

【展示室 B】平川紀道

平川は、コンピューターや光学機器を用いて自然現象や物質をデータ化し、それらに独自の変換を施すことで、私たち（人間）が日常的に目にしているのとは異なる形の「第二の自然」とも呼ぶべき存在を「作品」として出現させます。人間の眼やカメラでとらえた写真、センサーがとらえた数値は、この世界を確かにとらえているのでしょうか？光を目で見て、音を耳できくだけでは捉えられないものがあるのではないのでしょうか？論理的な手法で作られていながら、そんな禅問答のような問いを投げかける作品です。

【展示室 C】野村康生

この世界は三次元（縦、横、高さ）に広がっていると解説されていますが、私たちはこの3つの軸をきちんと認識できていますか？地球上には重力が働いていることから、上下の軸には前後や左右とは異なる感覚がもたらされていると考えられます。では宇宙空間に出て、縦、横、高さを等しく感じられるようになった時、人はどのような世界観を手に入れるのでしょうか？この問題を考える手がかりとして、野村がスケールの大きなインスタレーションを、15メートル四方、高さ7メートルの大空間に展開します。

【アーティスト紹介】

平川 紀道 HIRAKAWA Norimichi

島根県浜田市出身。2005年多摩美術大学情報デザイン学科情報芸術コース卒業。2007年、同大学大学院デザイン領域情報デザイン修了。2004年よりコンピューター・プログラミングを用いた映像・音響インスタレーションを中心とした作品群を国内外で発表する。また、池田亮司、大友良英、三上晴子らの作品制作への参加、「Typingmonkeys」としてのライブ・パフォーマンスなど、様々なフィールドで活動を展開する。



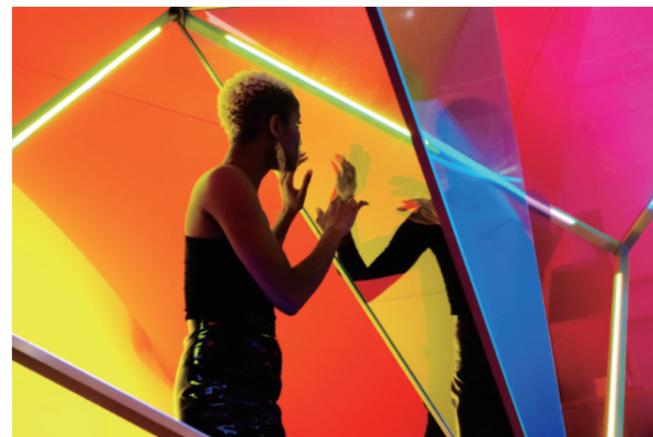
平川紀道「observers」 2008年、島根県立石見美術館での展示



平川紀道「sensory canvas」 2019年、明当代美術館（上海）での展示

野村 康生 NOMURA Yasuo

島根県益田市出身。2004年に武蔵野美術大学油絵科を卒業し2018年度の文化庁新進芸術家海外研修制度を受けてニューヨークに滞在、以降同地を拠点に活動する。彼の作品は、自然界や私たち宇宙の物理的・数学的な結びつきを探求するところからスタートし、2015年にカブリ IPMU でのレジデンスプログラムに参加したことで現代物理学の最先端理論である超ひも理論と出会い「Dimensionism」という概念にたどり着いた。以来「高次元」を対象とすることで私たちの知覚や認識を更新することを目指した作品を制作している。



野村康生「Dimensionism2.0 2.0」 2020年、NOWHERE ギャラリー（ニューヨーク）での展示

【主催】 島根県立石見美術館、しまね文化振興財団、山陰中央新報社

【後援】 芸術文化とふれあう協議会

【開館時間】 9：30～18：00（入館は17：30まで）

【休館日】 毎週火曜日

【観覧料】 [企画展] 一般：1,000(800)円、大学生：600(450)円、小中高生：300(250)円

[企画・コレクション展セット] 一般1,150(920)円、大学生700(530)円、小中高生：300(250)円

※()内は、20名以上の団体料金

[前売券] 一般：900円（企画・コレクション展セット）

【問合せ先】 〒698-0022 島根県益田市有明町5-15 島根県芸術文化センター「グラントワ」内 島根県立石見美術館

TEL 0856-31-1860 FAX 0856-31-1884 <https://www.grandtoit.jp>

担当：[広報] 田原、田中 [学芸] 川西、南目